

月例会ダイジェスト【61】

HIVのほか、鳥インフルエンザやSARSといった新興感染症など、企業の感染症対策は常に旬の課題といえる。今回のさんぽ会は、順天堂大学医学部総合診療科学講座教授の内藤俊夫氏と、ライオン(株)看護師の山田敏江氏を講師に招き、「企業における感染症対策」と題して開かれた。コーディネーターは、福田洋氏(順天堂大学・医師)、杉原栄一郎氏(ライオン(株)・医師)、田澤美香代氏(同・保健師)、安倉沙織氏(アビームコンサルティング(株)・保健師)の4人。

初めに、内藤氏が「HIV/AIDSについて」をテーマに講演した。まず、東京・新宿の繁華街などのHIVの感染率は、ニューヨークを超えている実情を挙げ、感染者は渡航者に限られず、ごく身近に存在する時代であるとした。HIVは、血液、精液などで感染する一方、尿や唾液、糞便、汗などでは感染しないといった基礎知識について会場への質問を交えて確認した。

かつては不特定多数の人との性交渉をやめるように呼びかけていたが、「付き合っている相手が1人でも、そこにつながる人は百人、千人を超える。相手が1人だから大丈夫というのは大きな誤解。今は1人でも性交すれば危ない」と警告。その上で「先進国でHIV感染者が増え続けているのは日本だけ」と強調した。

HIVに感染して年月が経ち、免疫が下がって肺炎や髄膜炎などの合併症を起こせばAIDSといわれるが、HIV感染だけでは普通の生活を送れて企業でも問題なく働ける。「CD4陽性Tリンパ球数の検査で一定数以上を保ち、ウイルス数が一定範囲内なら次の外来日を告げるだけで、薬でウイルスを抑制できる。糖尿病患者さんの血糖を調べながらコントロールするのと同様で外来自体は難しくないと話した。

また、日本でのHIV感染者の平均年齢は現在45歳を超えるという。「従来は若年層がイメージされやすかったが、どんどん年齢は高くなり、今は中年以降の病気になってきたことも知ってほしい」と述べた。それに伴い、HIV感染者は糖尿病や高血圧症など生活習慣病になりやすいこともわかってきたという。新薬により感染者も長生きするようになったため、「これからはHIVも一般のクリニックで生活習慣病とともに診る、慢性疾患と捉える時代になった」と解説した。

HIVの告知については「誰にも知られたくないという人が多く、やむを得ず本人だけに話しているのが現状」と説明した。家族への感染という危惧があるが、「決まりとして本人の意

思に従わなければならないのが大きな悩みどころ」と真情を吐露した。

会社内では、「いくら『HIVの人を受け入れていきましょう』といっても、社員の99%は『HIVの人と働きたい』と思っているかもしれない。それを変えるのは非常に難しい」と偏見の存在を指摘した。また、20歳でHIVに感染しても今の医療では40年以上生きられ、その間のさらなる医療の進歩を考慮して、「今HIVで人は死にません。ただし、AIDSになってからでは助からない」と言葉に力を込めた。

終わりに、「会社の健診にHIVの検査を加えてもし陽性が出たら、担当者も戸惑うはず。今は自分で血液を採って郵送で送って本人だけ結果を知る検査方法を健診に取り入れる企業が現れてきた」と付け加えた。

後半は、山田氏が社内でのインフルエンザワクチン接種の試みについて講演した。ライオンではインフルエンザ感染の予防と同ワクチン接種率の向上に積極的に取り組んでいる。当初、大阪オフィスの社員を対象にしたアンケート調査では、31%が予防接種を「受けた」と回答。「受けなかった」人の理由は、「行く時間がなかった」「自分は絶対かからない」「予防接種してもかかる」の順に多かったという。さらに、どういう状態なら予防接種を受けるかを尋ねると、「現行でも受ける」に次いで「(会社での接種等)医療機関での待ち時間がない」、3番目に「費用の一部が補助される」が高く、「これらの条件を満たせば75%の人に受けてもらえることがわかった」と話した。これを受け、費用確保のために人事・健保・労組等と調整したほか、産業界ではなくクリニックの医師らの出張を依頼して社内実施にこぎつけた。この結果、「接種率は52.5%に上昇し、罹患者数も激減」と効果を示し、事後アンケートの回答も「受けてよかった」が99%を超えた。

質疑応答とディスカッションでは、会場からHIVの薬の詳細を問われ、内藤氏が「以前は一日12錠飲むこともあったが、今は一日一回1錠。ただ、1錠約4,000~7,000円する」と答えた。インフルエンザについては、ある企業の人事担当者が「発症者を出社させない告知が重要。併せて、流行り始めたら上司が人事・看護職に報告できるシステムツールを安全衛生委員会で事業場全従業員の了解を得て活用している」と自社の取組みを紹介した。

最後に、福田氏が「私たちは感染症に対する勉強が足りない。社員さんたちはもともと知らない。感染症のリテラシーを上げることが多様な機会で行っていく必要がある」と結んだ。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp/>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>